横浜市立　南　高等学校評価報告書　（　令和　5　～　7　年度　）

様式1

取組分野		令和　5　年度		総括
		取組目標	自己評価	
重点取組項目	「総合的な探究の時間」の取組の推進	○TRY＆ACTを教育課程の軸として探究活動に取り組み、異なる文化や背景、価値観を持つ人たちとも協働して、新たな価値を創造できる人材を育成する。 ○学校評価アンケート「総合的な探究の時間では、主体的に考え、行動し、課題解決できるようになった」と答える生徒が90％以上。	アンケートで「そう思う＆ややそう思う」の学年結果が88．7％なので、学校全体としては概ね目標は達成できている。アンケート項目に「課題解決ができるようになった」とあるので、設定された課題次第では解決が難しくなるが、主体的に考え行動するところまではできている。職員の間で「教育課程の軸」という認識を浸透させることも必要である。	A
	魅力ある高校教育の推進	○多様な学校行事や生徒会行事等を通して、生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばすことで、自主自立の精神と、豊かな人間性を育む。 ○これからの社会で求められる資質・能力を身に付け、進学指導重点校として生徒一人ひとりが自ら進路を切り拓く力を育む。	○評価指標2「多様な学校行事や生徒会行事等を通して、生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばすことで、自主自立の精神と、豊かな人間性を育むことができている。」に対して、教職員・生徒・保護者とも90％以上の肯定的回答を得ており、本校の主体性を重視した教育活動が適切に行われている成果であると判断できる。	A
	グローバル教育の推進	○横浜版SGH校として、様々な国内・海外研修を積極的に行う。 ○社会の課題を協働的に解決できる高いレベルのコミュニケーション能力を身に付け、国際社会で活躍できるグローバル人材を育成する。	学年のそう思う＆ややそう思うが92．1％なので全校的には目標が達成出来ていると言える。海外への研修が一切禁止された中でも、アイデアを出して様々な取り組みを企画したことの結果であると考えられる。1年が94．7％、2年91・8％、3年89．6％と学年が上がるにつれてパーセンテージが下がるのは、進学準備に入ることや、それに合わせてプログラムでの募集がかからないことなどが原因だと推測される。	A
人材育成の取組目標		○「思考力・判断力・表現力等」の育成に向けて、全教員が主体的に校内授業研修会や公開授業に参加し、教育顧問等からの指導・助言を受け、授業力の向上を図る。 ○横浜市人材育成指標に基づき、市教育委員会が実施する研修と連動させながらキャリアステージに応じた教師力の向上を図る。	○評価指標7「校内授業研修会や公開授業、授業参観等を通じた授業改善が常に行われている。」に対して、教職員の91.7％が肯定的な回答をしており、定期的に行われている研究授業や研修会での、授業力の向上に向けた取り組みの成果であると考えることができる。本校教育顧問からの指導・助言を受ける機会を積極的に活用し、学校全体として研鑽に励んでいることも成果にあげられる。	A
中期学校経営方針における13の取組分野	教育目標等の設定・実施	○教職員が誇りをもって働き、生徒が希望をもって意欲的に学ぶ学校づくりを進める。 ○自主自立の精神を培い調和のとれた人間を育成する指導を推進する。	○評価指標17「学校の…保護者・生徒に教育目標や教育活動の取り組みについて理解されている」について教職員の85％以上が肯定的回答をしている。また評価指標10「自分（生徒）は学校の教育目標やそれを達成するための取組を理解している。」について生徒・保護の75％以上が肯定的回答をしている。生徒・保護者の意識の向上を図るべく、今後も学校目標の実現に向け教職員全体で取り組む必要がある。	B
	組織運営（働き方改革）教職員研修	○中学校と高等学校が連携し、組織を円滑かつ効率的に運営することで、業務の見直しを図りつつ、超過勤務の削減に対して意識的に取り組む。 ○横浜市人材育成指標に基づき、研修を有効に活用することで、常に学び続ける姿勢を持つ。	○評価指標18「中学校と高等学校が連携し全職員が円滑かつ効率的に学校運営に参画している。」に対しての教職員の肯定的回答は59.5％にとどまっている。中高教育一貫校として諸活動を充実したものにしていくために、教職員の意思疎通を今後も図っていく必要がある。 ○職員の多忙、負担軽減に向け業務内容の精選を行い、無理のない職場環境づくりする必要がある。	C
	教育課程	○中高一貫教育校として、6年間の学習を計画的かつ継続的に行うため、教育課程の研究を一層推進し、改善を行う。 ○総合的な探究の時間において、生徒の課題探究能力や課題解決能力の育成を図る。 ○進学指導重点校として教育課程の不断の改善を行う。	1年間に渡って中高教育課程研修会や研究授業を実施し、教科で抱える観点別評価の課題や取り組みを報告書の作成と共に学校全体で共有することができた。中高一貫校として、6年間を見通したカリキュラム・マネジメントの確立は、中高の連携と共に継続的かつ長期的に取り組む必要があり、努力が必要である。高校における教育課程研究については、生徒や社会の実態に応じて引き続き研究していく必要がある。	C
	教科指導	○研修や校内授業研修会や公開授業 、授業参観等を通じた授業改善を行う。 ○授業力の向上による生徒の一層の学習意欲の喚起を促し、望ましい学習習慣を定着させるとともに、学力を向上させる。	○評価指標6「生徒の主体的で対話的な学習活動を支援しており、望ましい学習習慣の定着とともに、資質・能力を向上させることができている。」に対する肯定的回答が90％を超えている。生徒・保護者への同内容の指標でも生徒の87％、保護者の79.2％が肯定的回答をしている。本校教職員の、教科指導力向上への改善・研究・研修の努力の成果ととらえることができる。	A
	特別活動部活動	○生徒会行事やホームルーム活動を通して、人間関係調整力や責任感、リーダーシップなど、社会で生きる力を育成する。 ○発達段階に合わせた適切な部活動や学校行事、特別活動の研究を行う。	生徒は、生徒会行事やホームルーム活動を通して、コミュニケーションを図り、積極的に活動することができた。一方で、より高い次元での人間関係調整力や責任感、リーダーシップの育成を目指し、社会で生きる力の育成に一層取り組む必要がある。そのために必要な特別活動の研究を今後も継続して実施し、本校の実情に合わせ、職員間で共有し、引き続き取り組みたい。	B
	生徒指導教育相談（特別支援）	○挨拶の励行や社会的規範意識の向上を指導する。 ○教育相談や研修など、必要に応じて外部機関と連携し、生徒理解を深めるとともに、適切な指導を積極的に行う。	学校生活を通じて、挨拶や時間配分など基本的な生活習慣を身につけることができているが、状況に合わせた社会的マナーや公共心の育成に関しては一層の取り組みが必要である。教育相談については、相談しやすい環境づくりや外部機関との連携を密にとり、適切な指導を引き続き取り組みたい。	B
	キャリア教育進路指導	○キャリア教育の観点に立った大学や企業との連携により、自己の適性を知り、自ら学ぶ態度を身に付けさせる。 ○妥協しない進路実現を図るために、計画的・継続的な指導を行う。	○大学別説明会や分野別説明会、高大連携講座、企業講演を通して、大学での学びや進路選択、社会貢献など様々な観点で自己実現の方法や考え方を学ばせた。 ○妥協しない進路実現へ向け、1年生では興味関心がある学部学科を考えさせるレポート作成を行い、2年生では志望理由書のレポート作成を行うなどして、計画的・継続的な指導を行った。	A
	保健指導環境美化	○食育全体計画・学校保健計画・学校安全計画を策定し、食育・保健指導・安全指導等を実施する。	○環境美化活動については、82％以上の生徒が認識し、日々実践している。ゴミ箱を削減している状態だが、ゴミがあふれることもなく、ゴミ削減に対する意識も根付いてきた。 ○学校保健計画に従って保健指導を進めることができた。新型コロナウイルス感染症対策の変更に伴う指導もスムーズに実施できた。 ○学校安全計画の通りに安全指導を実施した。その他、階段からの転落防止対策を講じた。	B
	学校経理施設・設備情報の管理	○学校予算の効率的かつ適切な執行については、中学校と連携し、学校事務職員だけではなく教職員全体で意識の向上を図る。 ○「横浜市におけるGIGAスクール構想」に基づき、1人1台端末の活用等、教育のICT化をさらに推進する。	R5高校自己評価−13 ○学校予算の効率的かつ適切な執行については、中学校と連携して、特に消耗品費や修繕費について執行することができた。また、全体で意識の向上を図ることができた。 ○「横浜市におけるGIGAスクール構想」に基づき、1人1台端末の活用等、教育のICT化を推進することができた。	B
	保護者・地域等との連携協力	○PTA・同窓会・後援会との協働による教育支援体制の強化を図る。 ○保護者会・懇談会等を通して、保護者との連携協力を推進する。 ○体育祭や文化祭で、本校の教育活動を広く公開する。	○PTA・同窓会・後援会との連携においては、10・70周年記念行事へ向けて会議を定期的に開催し、より強化を図っている。 ○「コロナ下」も終わり、体育祭や南高祭も、PTAや地域の方々に来ていただける状況になった。「teket」を使い来場者の把握をして、ご来場いただいた。この際、PTAの方々と協力してアプリを使用し、保護者の方々と連携を強めた。	B
	危機管理	○学校防災・防犯プランをもとに、緊急物資の備蓄や防災指導・防犯指導等を充実させるとともに、緊急メール配信システムを適切に運用する。 ○新型コロナウイルス等、感染症にかかる適切な対応を行う。	○避難経路確認訓練や帰宅方面別防災訓練の画像などをホームページに載せて、保護者の方々にもその様子が確認できるように周知徹底していき、学校での指導について理解を深めてもらう。 ○生徒に、各家庭で「防災」について、家族で話し合うように指導し、学校・家庭で災害が発生した時の待ち合わせ場所や連絡方法について考えさせる。	C
	学校に関する情報公開	○学校ホームページの適切な運用等、学校広報活動のさらなる充実を図る。 ○学校評価を活用した学校情報の公開を推進する。	学校ホームページを各分掌の教職員が計画的な更新を進め、昨年度から始めた生徒による部活動ページの更新によりアクセス数は向上している。 学校説明会のアンケートから78％の参加者が学校HPの情報から知り得ていたことから概ね達成できていると思う。 今後は学校評価の意見を尊重し、よりわかりやすいデザイン性の高いHPを提供できるよう取り組んでいきたい。	B
	いじめへの対応	○教職員が一体となり、深い生徒理解を通じて生徒一人ひとりが安全で、安心して学校生活を送れる環境をつくる。 ○生徒の自己有用感を高め、いじめを許さない学校づくりを進める。	いじめ対策アンケートの活用や担任、学年、学年の生活部担当で連携して、いじめの早期発見ができる組織づくり（いじめ防止対策委員会などの活用）を今後も目指していく。また生徒が相談できる環境づくりも合わせて取り組んでいく。	A

学校関係者評価書提言	重点取組項目である、「『総合的な学習・探究の時間』の取組の推進」、「魅力ある教育の推進」、「グローバル教育の推進」に関する総括の評価全てにおいて、高いものが認められる。校長先生はじめ教職員の皆様のご努力と日常的な教育活動の成果が具現化されている。 横浜市立南高等学校と同附属中学校が、さらにより良くなるには、三つの重点取組項目の内、「『総合的な学習・探究の時間』の取組の推進」について、中高6カ年を見通した生徒一人一人の「探究」の資質・能力を育むため、中高一貫でのカリキュラム・マネジメントの充実を図ることが期待される。また、新型コロナウィルスの影響で、国内研修は行われたものの海外研修が行われなかった状況もあり、中高一貫校として、これまでに培われてきた中高6カ年を見通した「グローバル教育の一層の推進」を図ることも、これまで以上に重要となる。 学校を取り巻く社会状況の変化の中で、中高一貫教育の特徴を生かし、さらなる充実が期待される。
学校関係者評価書提言に対する考え	令和5年度の重点取組項目である、「『総合的な探究の時間』の取組の推進」「魅力ある高校教育の推進」「グローバル教育の推進」の総括において、それぞれ「A」となったことについて、教職員の日々の取組を評価していただいた。「『総合的な探究の時間』の取組の推進」への取組を、令和6年度に向けてさらに深化させるため、提言にあるように「中高一貫でのカリキュラム・マネジメントの充実を図る」ため、TRY＆ACTを軸とした探究活動において、中高の連携を意識しながら取組んでいきたい。 現在、学校が企画する海外研修旅行は中断しているが、コロナ後の「グローバル教育の推進」に向け、旅行会社が企画する、希望者による「カナダ国際交流プログラム」を用意した。令和6年3月下旬に行われるこのプログラムには多くの生徒が参加しており、日々の英語学習やコミュニケーション活動を磨き、深化させていくものとして期待している。

中期目標振り返り	○中高一貫教育校として6年間を見通したカリキュラムの作成、中高の教職員の協働による計画的で継続的な教育活動に取り組んだ。 ○「総合的な探究の時間」を活用した教科横断的な探究活動「TRY＆ACT]や、本校独自の「グローバルリーダープロジェクト（GLP）」への取り組みを通じ、国際社会で活躍できる人材の育成につとめた。 ○研究授業や研修会等の、授業力向上に受けた取り組みが継続的に行われている。

取組分野		令和　6　年度		総括
		取組目標	自己評価	
重点取組項目	「総合的な探究の時間」の取組の推進	○TRY＆ACTを教育課程の軸として探究活動に取り組み、異なる文化や背景、価値観を持つツ人たちとも協働して、新たな価値を創造できる人材を育成する。○学校評価アンケート「総合的な探究の時間では、主体的に考え、行動し、課題解決できるうようになった」と答える生徒が90％以上。	TRY&ACTをカリキュラムの軸として、教科横断、地域連携、外部リンクの有効活用等、積極的に探究活動に取り組んだ。その成果は地元紙や各インターネットサイト、メディアなどでの掲載やコンテストなどの結果に表れている。また生徒の学校評価アンケート「総合的な探究の時間では、主体的に考え、行動し、課題解決できるようになった」と回答するものが85％と高い評価を得ている。	A
	魅力ある高校教育の推進	○多様な学校行事や生徒会行事等を通して、生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばすことで、自主自立の精神と、豊かな人間性を育む。 ○これからの社会で求められる資質・能力を身に付け、進学指導重点校として生徒一人ひとりが自ら進路を切り拓く力を育む。	○評価指標2「多様な学校行事や生徒会行事等を通して、生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばすことで、自主自立の精神と、豊かな人間性を育むことができている。」に対して、生徒・保護者とも90％以上、教職員の87％以上の肯定的回答を得ており、本校の主体性を重視した教育活動が適切に行われている成果であると判断できる。	A
	グローバル教育の推進	○横浜SGHとして国内外グローバルリーダー研修を企画する。 ○社会の課題を協働的に解決できる高いレベルのコミュニケーション能力を身に付け、国際社会で活躍できるグローバル人材を育成する。	横浜スーパーグローバルハイスクールとして国内では広島と大分での研修、海外ではニューヨークでの研修を企画、実施した。また新型コロナ感染症のパンデミック以降初となるバンクーバー姉妹校への訪問やこれまでオンラインで交流をしていたシンガポールへの研修を実現した。また上海市とのオンライン交流を継続的に行っており、新たに政府の事業である大阪万博を契機とした国際交流にも取り組んだ。	A
人材育成の取組目標		○「思考力・判断力・表現力等」の育成に向けて、全教員が主体的に校内授業研修会や公開授業に参加し、教育顧問等からの指導・助言を受け、授業力の向上を図る。 ○横浜市人材育成指標に基づき、市教育委員会が実施する研修と連動させながらキャリアステージに応じた教師力の向上を図る。	○評価指標7「校内授業研修会や公開授業、授業参観等を通じた授業改善が常に行われている。」に対して、教職員の78％が肯定的な回答をしている。昨年度より若干低い数値となったが、定期的に行われている研究授業や研修会等の取り組みが成果をあげていると考えられる。本校教育顧問からの指導・助言を受ける機会を積極的に活用し、今後も学校全体として研鑽に励んでいることが必要である。	B
中期学校経営方針における13の取組分野	教育目標等の設定・実施	○教職員が誇りをもって働き、生徒が希望をもって意欲的に学ぶ学校づくりを進める。 ○自主自立の精神を培い調和のとれた人間を育成する指導を推進する。	○評価指標17「学校の…保護者・生徒に教育目標や教育活動の取り組みについて理解されている」について教職員の84％以上が肯定的回答をしている。また評価指標10「自分（生徒）は学校の教育目標やそれを達成するための取組を理解している。」について生徒は85％以上、保護者の77％以上が肯定的回答をしている。生徒・保護者の意識の向上を図るべく、今後	B
	組織運営（働き方改革）教職員研修	○中学校と高等学校が連携し、組織を円滑かつ効率的に運営することで、業務の見直しを図りつつ、超過勤務の削減に対して意識的に取り組む。 ○横浜市人材育成指標に基づき、研修を有効に活用することで、常に学び続ける姿勢を持つ。	○評価指標18「中学校と高等学校が連携し全職員が円滑かつ効率的に学校運営に参画している。」に対しての教職員の肯定的回答は44.4％にとどまっている。中高教育一貫校として諸活動を充実したものにしていくために、教職員の意思疎通を今後も図っていく必要がある。 ○職員の多忙、負担軽減に向け業務内容の精選を行い、無理のない職場環	C
	教育課程	○中高一貫教育校として、6年間の学習を計画的かつ継続的に行うため、教育課程の研究を一層推進し、改善を行う。 ○総合的な探究の時間において、生徒の課題探究能力や課題解決能力の育成を図る。 ○進学指導重点校として教育課程の不断の改善を行う。	中高教育課程研修会や研究授業を実施し、教科で抱える観点別評価の課題や取り組みを学校全体で共有した。一方、高校入学者選抜廃止にともなう完全中高一貫校としての6年間を見通した教育課程の研究と改善は、中高教職員の今まで以上の交流と意見交換を通して迅速に取り組んでいく必要がある。 総合的な探究の時間においては、附属中EGGと高校TRY&ACTにおいて生徒同士の有機的な接続を模索していきたい。	C
	教科指導	○研修や校内授業研修会や公開授業 、授業参観等を通じた授業改善を行う。 ○授業力の向上による生徒の一層の学習意欲の喚起を促し、望ましい学習習慣を定着させるとともに、学力を向上させる。	○評価指標6「生徒の主体的で対話的な学習活動を支援しており、望ましい学習習慣の定着とともに、資質・能力を向上させることができている。」に対する肯定的回答が81％を超えている。生徒・保護者への同内容の指標でも生徒の90.1％、保護者の75.6％が肯定的回答をしている。本校教職員の、教科指導力向上へ向けた取組が成果をあげていると見ることができる。	B
	特別活動部活動	○生徒会行事やホームルーム活動を通して、人間関係調整力や責任感、リーダーシップなど、社会で生きる力を育成する。 ○発達段階に合わせた適切な部活動や学校行事、特別活動の研究を行う。	生徒会部では、文化委員を担当し、主に合唱コンクールの運営を指導した。委員は、コンクールまでの様様な業務に関するスケジュール決め、中高各クラスへの連絡、当日の運営や審査など多岐に仕事がある。各業務は、議長団を中心進め、活動を通して委員たちの責任感やリーダーシップを育むことができた。	B
	生徒指導教育相談（特別支援）	○挨拶の励行や社会的規範意識の向上を指導する。 ○教育相談や研修など、必要に応じて外部機関と連携し、生徒理解を深めるとともに、適切な指導を積極的に行う。	学校生活を通じて基本的な生活習慣を身につけることができているが、状況に合わせた社会的マナー（特に登下校のマナーについて）や公共心の育成に関しても一層の取り組みが必要である。教育相談については、相談しやすい環境づくり（相談できる場面設定）や外部機関との連携を密にとり適切な指導を引き続き取り組みたい。	B
	キャリア教育進路指導	○キャリア教育の観点に立った大学や企業との連携により、自己の適性を知り、自ら学ぶ態度を身に付けさせる。 ○妥協しない進路実現を図るため、計画的・継続的な指導を行う。	多くの大学と連携し講演や説明会を通して、自己の在り方生き方を自身の進路と結び付けて具体的、現実的なものとして捉える機会を設けた。学校評価の集計データでは、「主体的に考え行動し課題解決が出来るようになった」との評価が高い割合となっている。しかし、主体的な行動ができていないと感じている生徒も一定数いるので、今後も、事前・事後指導等の改善を図り指導を行っていきたい。	A
	保健指導環境美化	○日々の清掃活動の強化を行い、生徒一人一人が校内環境美化に携わっているという自覚をもたせる。 ○食育全体計画は、生徒の実態や教育課程に合わせた計画となるよう、関係する部署と共通理解の上、策定することが課題である。	●美化活動を行う意味を生徒一人一人に考えさせ、美化委員としての役割と仕事に意義と責任感を持たせることができた。自らの生活環境が過ごしやすくなるよう工夫し、委員としてのあり方をブラッシュアップさせ続ける必要がある。 ●学校保健計画に沿って、指導・対応することが出来たと思う。生徒会各種委員会の活動については、中学校との連携を視野に入れた内容の検討が必要である。	B
	学校経理施設・設備情報の管理	○学校予算の効率的かつ適切な執行については、中学校と連携し、学校事務職員だけではなく教職員全体で意識の向上を図る。 ○「横浜市におけるGIGAスクール構想」に基づき、1人1台端末の活用等、教育のICT化をさらに推進する。	○学校予算の効率的かつ適切な執行について、中学校と連携して執行（消耗品・備品）ができ、意識の向上も図れた。 ○「横浜市におけるGIGAスクール構想」に基づき、1人1台端末の活用等、教育のIC化を推進をサポートすることができた。	A
	保護者・地域等との連携協力	○PTA・同窓会・後援会との協働による教育支援体制の強化を図る。 ○保護者会・懇談会等を通して、保護者との連携協力を推進する。 ○体育祭や文化祭で、本校の教育活動を広く公開する。	○PTA・同窓会・後援会と協働しながら、生徒がより良い学校生活を送れるよう支援することができた。 ○各学年、各学級で保護者会・懇談会を行い、さらに7月末には中高合同懇談会を開き、保護者どうしも横の連携できる機会をもてた。 ○体育祭や文化祭に多くの保護者が来校した。さらに今年度は周年行事もあり、そちらも公開した。教育活動を理解していただけたと思う。	B
	危機管理	○学校防災・防犯プランをもとに、緊急物資の備蓄や防災指導・防犯指導等を充実させるとともに、緊急メール配信システムを適切に運用する。 ○新型コロナウイルス等、感染症にかかる適切な対応を行う。	○AとBの評価が70％以上あり、達成できているという評価の半面で、CとDの評価も60％以上あるという結果を真摯に受け止めたい。来年度はより防災に力を入れて取り組んでいく。 ○今年度は防災計画書の丁寧な見直しを行った。来年度に向けて、生徒たちが災害時に自ら考え、自分を守るための行動を取れるような実用的な訓練を計画した。防災倉庫内の物品の確認を行った。	B
	学校に関する情報公開	○学校ホームページの適切な運用等、学校広報活動のさらなる充実を図る。 ○学校評価を活用した学校情報の公開を推進する。	学校HPの適切な運用という点においては、最低限の取り組みを行うことに留まった。そして、広報活動の更なる充実という点では、全く以って図ることができなかった。この点は学校評価において、学校Webページの充実度に対する消極的評価が一程度あることにも繋がった。今年度の取り組み目標等、ICTHP委員会としての方向性を明瞭に引き継がないまま、活動することになったことが大きな要因であると考える。	B
	いじめへの対応	○教職員が一体となり、深い生徒理解を通じて生徒一人ひとりが安全で、安心して学校生活を送れる環境をつくる。 ○生徒の自己有用感を高め、いじめを許さない学校づくりを進める。	年に2回おこなわれるいじめ対策アンケートの活用や特に夏休み明けの教育相談期間や担任、学年の生活部担当で連携していじめの早期発見ができる組織づくり（いじめ防止委員会などの活用）を今後も目指していく。また生徒が相談できる環境づくりも合わせて取り組んでいく。	B

学校関係者評価書提言	高等学校教育が大きく変わろうとしている中で、これまでの知識習得型の教育から思考力・判断力・表現力等を重視したものへの変換が求められている。そこでは一人一人の生徒を主語とした学校教育の在り方が求められており、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善が求められている。南高・附属中においても、現代的な教育課題に向けての転換を図ることが喫緊の課題であるが、幸いこれまでも中学校の総合的な学習の時間「EGG」、高等学校の総合的な探究な時間「TRY&ACT」が当初から充実が図られてきた。今後は、中高一貫校として6年間を通した教育課程への取組が問われる。高校生の進路指導を含め、生徒の未来を創出する意味でも、これまで中高で分かれて行われてきた教育課程の一貫性を図ることが重要となる。それは、教科学習の先取りや前倒しではなく、「EGG」と「TRY&ACT」を中核とする教育課程によって実現が可能となる。
学校関係者評価書提言に対する考え	令和6年度の重点取組項目である、「『総合的な探究の時間』の取組の推進」「魅力ある高校教育の推進」「グローバル教育の推進」の総括において、今年度もそれぞれ「A」となったことについて、教職員の日々の取組を評価していただいた。提言にあるように「主体的・対話的で深い学び」の授業改善ため、TRY＆ACTを軸とした探究活動において、中高の連携を意識しながら取組んでいきたい。今年度は国内でのグローバルリーダー研修に加え、カナダでの国際交流プログラムやニューヨークでのグローバルリーダー研修も実施し、日々の英語学習やコミュニケーション活動を磨き、深化させていくものとして期待している。

中期取組目標振り返り	○中高一貫教育校として6年間を見通したカリキュラムの作成、中高の教職員の協働による計画的で継続的な教育活動に取り組んだ。 ○「総合的な探究の時間」を活用した教科横断的な探究活動「TRY＆ACT]や、本校独自の「グローバルリーダープロジェクト（GLP）」への取り組みを通じ、国際社会で活躍できる人材の育成につとめた。 ○研究授業や研修会等の、授業力向上に受けた取り組みが継続的に行われている。

取組分野		令和　7　年度		総括
		取組目標	自己評価	
重点取組項目	「総合的な探究の時間」の取組の推進	TRY＆ACTを教育課程の軸として探究活動に取り組み、異なる文化や背景、価値観を持つ人たちと協働して、新たな価値を創造する。また本校のスクールミッションやスクールポリシーの実現に貢献できるように全職員で取り組んでいく。	【国際企画】 生徒のTRY＆ACTにおいて探究活動の発表の場をサポートし、毎回記録を残すことにより、フィードバックを促せた。	A
	魅力ある高校教育の推進	○多様な学校行事や生徒会行事等を通して、生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばすことで、自主自立の精神と、豊かな人間性を育む。 ○これからの社会で求められる資質・能力を身に付け、進学指導重点校として生徒一人ひとりが自ら進路を切り拓く力を育む。	評価指標2「多様な学校行事や生徒会行事等を通して、生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばすことで、自主自立の精神と豊かな人間性を育むことができている。」については、生徒・保護者・教職員のいずれの層からも 90％以上の肯定的な回答 が得られた。 このことから、本校が進めている 主体性を重視した教育活動が適切に実施され、一定の成果が上がっている と判断できる。	A
	グローバル教育の推進	横浜スーパーグローバルハイスクールとしてのプレゼンスを発揮し、ニューヨーク、バンクーバー、上海、シンガポールへの海外研修の企画と運営を行う。	【国際企画】 フードドライブ等のボランティア活動をサポートし、地域との連携を図り、広い意味でのグローバル教育を推進した。	A
人材育成の取組目標		○「思考力・判断力・表現力等」の育成に向けて、全教員が主体的に校内授業研修会や公開授業に参加し、教育顧問等からの指導・助言を受け、授業力の向上を図る。 ○横浜市人材育成指標に基づき、市教育委員会が実施する研修と連動させながらキャリアステージに応じた教師力の向上を図る。	評価指標7「校内授業研修会や公開授業、授業参観等を通じた授業改善が常に行われている。」については、教職員の 86％が肯定的に回答している。昨年度よりも数値が上昇していることから、定期的に実施している研究授業や研修会等の取組が、着実に成果を上げつつあると考えられる。 今後も、本校教育顧問からの指導・助言を得られる機会を積極的に活用し、学校全体として授業改善に向けた研鑽を継続していくことが重要である。	A
中期学校経営方針における13の取組分野	教育目標等の設定・実施	○教職員が誇りをもって働き、生徒が希望をもって意欲的に学ぶ学校づくりを進める。 ○自主自立の精神を培い調和のとれた人間を育成する指導を推進する。	評価指標17「学校の教育目標や教育活動の取組について、保護者・生徒に理解されている」については、教職員の 85％以上が肯定的に回答している。また、評価指標10「自分（生徒）は学校の教育目標や、それを達成するための取組を理解している。」に対しては、生徒の77％以上、保護者の80％以上が肯定的に回答している。これらのことから、生徒および保護者に対して教育目標や取組の理解が一定程度浸透していると考えられる。今後も学校目標の実現に向け、情報発信と取組の強化を行っていく必要がある。	B
	組織運営（働き方改革）教職員研修	○中学校と高等学校が連携し、組織を円滑かつ効率的に運営することで、業務の見直しを図りつつ、超過勤務の削減に対して意識的に取り組む。 ○横浜市人材育成指標に基づき、研修を有効に活用することで、常に学び続ける姿勢を持つ。	評価指標18「中学校と高等学校が連携し、全職員が円滑かつ効率的に学校運営に参画している。」については、教職員の肯定的回答は46.3％にとどまっている。中高一貫教育校として諸活動をより充実させていくためには、教職員間の意思疎通を一層図り、連携体制を強化していく必要がある。 また、職員の多忙化や負担軽減に向けては、業務内容の精選を進め、無理のない職場環境の整備に取り組むことが求められる。	D
	教育課程	○中高一貫教育校として、6年間の学習を計画的かつ継続的に行うため、教育課程の研究を一層推進し、改善を行う。 ○総合的な探究の時間において、生徒の課題探究能力や課題解決能力の育成を図る。 ○進学指導重点校として教育課程の不断の改善を行う。	【教育課程委員会・国際企画部】 ○教育課程委員会と連絡を密に取り、教育課程の研究を一層推進し、改善を行った。 ○総合的な探究の時間において、生徒の課題探究能力や課題解決能力の育成を図るため、面談等でアドバイスを実施した。	C
	教科指導	○研修や校内授業研修会や公開授業 、授業参観等を通じた授業改善を行う。 ○授業力の向上による生徒の一層の学習意欲の喚起を促し、望ましい学習習慣を定着させるとともに、学力を向上させる。	評価指標6「生徒の主体的で対話的な学習活動を支援しており、望ましい学習習慣の定着とともに、資質・能力を向上させることができている。」については、教職員の 84％以上が肯定的に回答している。 また、生徒・保護者を対象とした同様の指標においても、生徒の87％、保護者の81％が肯定的に回答しており、学習活動の質に対する評価は総じて高い。 これらの結果から、本校教職員が取り組んでいる 教科指導力の向上を目指した実践が着実に成果を上げている と判断できる。	B
	特別活動部活動	令和7年度も、行事運営の指導に携わる予定となっている。南高校では1年間に多くの行事が予定されていることから、円滑な進行ができるよう生徒たちに指導していきたいと思っている。	【生徒会部・生活部】 学校行事や部活動を通じて、協調性やコミュニケーション能力を養い、積極性、リーダーシップ、行動力などの人間性の育成を図れるように更に研究をおこなっていく。	A
	生徒指導教育相談（特別支援）	○挨拶の励行や社会的規範意識の向上を指導する。 ○教育相談や研修など、必要に応じて外部機関と連携し、生徒理解を深めるとともに、適切な指導を積極的に行う。	【生活部】 学校生活を通じて基本的な生活習慣を身につけることができているが、状況に合わせた社会的マナーや公共心の育成に関しても一層の取り組みが必要である。教育相談については、今年度はスクールカウンセラーによるストレス対応ミニ講座を実施し、生徒自身が小さなストレスでも、上手く対応していくスキルを身につけることができるように取り組んだ。また引き続き相談しやすい環境づくりに努めていく。	B
	キャリア教育進路指導	○キャリア教育の観点に立った大学や企業との連携により、自己の適性を知り、自ら学ぶ態度を身に付けさせる。 ○妥協しない進路実現を図るため、計画的・継続的な指導を行う。	○東京大学、東京科学大学、横浜国立大学など、多くの生徒が受験する大学や商社より講師を招待し講演会を実施した。今後も計画的・継続的な指導を行う。 ○学校評価において「計画的かつ継続的に6年間で身に着ける資質・能力の育成が図れていない」と感じている生徒・保護者が一定数いた。今年度、進路内で作成した6年間の進路指導計画大綱をもとに、今後のキャリア教育を図る。	A
	保健指導環境美化	○日々の清掃活動の強化を行い、生徒一人一人が校内環境美化に携わっているという自覚をもたせる。 ○食育全体計画は、生徒の実態や教育課程に合わせた計画となるよう、関係する部署と共通理解の上、策定することが課題である。	【生活部】 ○美化活動の意義を生徒に考えさせることで、責任感を高めることができた。生活環境を整える工夫も見られ、今後も委員としての在り方を向上させていく必要がある。 ○学校保健計画に沿って適切に指導・対応できた。生徒会各委員会の活動は、中学校との連携を踏まえ、今後さらに内容を検討する必要がある。	B
	学校経理施設・設備情報の管理	○学校予算の効率的かつ適切な執行については、中学校と連携し、学校事務職員だけではなく教職員全体で意識の向上を図る。 ○「横浜市におけるGIGAスクール構想」に基づき、1人1台端末の活用等、教育のICT化をさらに推進する。	【事務・総務部】 ○中学校と連携し学校予算の効率かつ適切な執行に努め、教職員全体の意識向上を図ることができた。予算をとりまく環境が年々厳しさを増していることから、さらなる効率的かつ適切な予算執行に取り組んでいく必要がある。さらに、ますます各部署と連携し執行計画を作成する必要がある。	A
	保護者・地域等との連携協力	○PTA・同窓会・後援会との協働による教育支援体制の強化を図る。さらに、次年度は高P連の幹事校として、その役割をしっかり果たしていきたい。 ○保護者会・懇談会等を通して、保護者との連携協力を推進する。 ○体育祭や文化祭で、本校の教育活動を広く公開する。	【総務部・ICTHP委員会】 ○PTA・同窓会・後援会と協働しながら、生徒がより良い学校生活を送れるように努めた。 ○各学年、各学級で保護者会・懇談会を行い、中高合同懇談会を開き、保護者どうしも連携できる機会を設けた。 ○体育祭や文化祭に多くの保護者が来校できる機会を設けることにより、教育活動を理解していただけた。	B
	危機管理	○学校防災・防犯プランをもとに、緊急物資の備蓄や防災指導・防犯指導等を充実させる。 ○感染症対策として適切な対応を行う。	【防災委員会・生活部】 ○今年度の新しい取り組みとして、生徒に告知しない形の防災訓練を国際防災DAYと合わせて実施することができた。この実践が職員・生徒共に防災への意識を高くもたせる良い機会となった。 ○防犯教育を中学校生徒向けに実施することができた。	B
	学校に関する情報公開	○学校ホームページの適切な運用等、学校広報活動のさらなる充実を図る。 ○学校評価を活用した学校情報の公開を推進する。	【ICTHP委員会・学校評価委員会】 ○学校HPの適切な運用という点においては、noteを活用し中高校で行われた行事や海外交流レポートを発信する事により、広報活動の充実に取り込んだ。 ○情報公開のアンケート結果で8割程度の方が肯定的に評価して頂いています。よりわかりやすいデザイン性の高いHPを提供できるよう取り組んでまいります。	B
	いじめへの対応	○教職員が一体となり、深い生徒理解を通じて生徒一人ひとりが安全で、安心して学校生活を送れる環境をつくる。 ○生徒の自己有用感を高め、いじめを許さない学校づくりを進める。	【生活部】 年に2回おこなわれるいじめ対策アンケートの活用や特に夏休み明けの教育相談期間や担任、学年の生活部担当、スクールカウンセラーと連携していじめの早期発見ができる組織づくり（いじめ防止委員会などの活用）を今後も目指していく。いじめのない学校生活が送れるように努めていく。	A

学校関係者評価書提言	令和8年度から南高等学校・附属中学校は、中高一貫教育の新たな段階へ進む。高校からの入学生がいなくなることに加え、これからの時代に求められる一貫教育の先導的役割が期待されているためである。これまで十数年にわたり蓄積してきた教育の成果を基盤に、さらなる教育の展開が求められている。従来は大学進学への期待が大きくあったが、入学者選抜制度の改革により、知識量や正確さを測るだけでなく、探究を通して「大学で何をどのように学ぶか」という学びの姿勢が重視されるようになった。こうした変化を踏まえ、同校では中高6年間を通して生徒の資質・能力を育む教育を推進している。さらに、地域連携やグローバル教育などの実践を生かし、生徒が自ら考え主体的に行動できる力を育てる活動を展開しており、これらが全国の中高一貫教育校の先導的取り組みとなることを期待している。
学校関係者評価書提言に対する考え	本校は、学校経営アドバイザーからの提言を、令和8年度からの新たな中高一貫教育体制を進める上で重要な指摘として受け止めている。高校募集の停止により、中高6年間を通した教育の質がこれまで以上に問われることは認識しており、これまで十数年で培ってきた教育実践を基盤に、さらなる改善と改革を進めていく。大学入学者選抜制度の変化に伴い、知識の量だけでなく、探究的な学びを通した「学び続ける姿勢」が重視されることについても共感しており、本校の教育方針とも一致している。地域連携やグローバル教育の取り組みを深化させ、生徒が主体的に学び行動できる資質・能力を育成することが、先導的中高一貫校としての使命であると考えている。今後も提言を踏まえ、教育活動の質を高め、全国のモデルとなる学校づくりを進める。

中期取組目標振り返り	○中高一貫教育校として6年間を見通したカリキュラムの作成、中高の教職員の協働による計画的で継続的な教育活動に取り組んだ。 ○「総合的な探究の時間」を活用した教科横断的な探究活動「TRY＆ACT]や、本校独自の「グローバルリーダープロジェクト（GLP）」への取り組みを通じ、国際社会で活躍できる人材の育成につとめた。 ○研究授業や研修会等の、授業力向上に受けた取り組みが継続的に行われている。